

第70回都草歴史探訪会

『初秋の勸修寺とその小里を訪ねて』 (伏見深草部会)

日 時：平成28年9月28日(水) 9時30分出発

集合場所：地下鉄小野駅

参加人員：25名(うち非会員2名)

コース：勸修寺(庭園)→可笑庵(大石順教尼)→宮道神社→藤原定方墓碑→
藤原高藤墓→吉利俱八幡宮(解散) 12時30分頃

タイトルに「初秋」とつけたにもかかわらず、この日の京都は蒸し暑く時おり激しい雨が降る一日でした。

第70回を迎える今回は、歴探で初めての朝早くの試みとして、午前9時受付、9時30分スタートとしました。

●出発前の森支部長のあいさつ



●勸修寺

勸修寺のある場所は平安時代前期、土地の豪族宮道弥益の屋敷がありました。たまたまそこに藤原冬嗣の孫の高藤が、鷹狩りの際に雨宿りのために立ち寄り、そこで、宮道弥益の娘の列子を見染め、やがて高藤と列子は結ばれ、その子の胤子が宇多天皇の女御となり醍醐天皇を生んだことで、宮道家は皇室や藤原氏の庇護のもと栄えたという、まさに「玉の輿」伝説としても伝えられています。

・山門前



・書院前



書院は、貞享 3 年(1686)に、後西天皇の仮内侍所を弟帝・靈元天皇から賜って移築したものあるいは明正天皇の宮殿ともいわれ、一の間の違棚は「勸修寺棚」として知られています。

大雨の中、林会員の説明に参加者は熱心に聞き入っていました。

・書院前のハイビヤクシンと勸修寺灯籠



勸修寺灯籠は水戸光圀が寄進したと伝え、ハイビャクシンは樹齢 750 年と伝えられています。

●勸修寺庭園（氷池園）



平安時代以来と伝わる「氷室池（ひむろいけ）」を中心とする庭園です。

雨の中、萩が咲いていました。

●可笑庵

大石順教尼の生涯について、堀江六人斬り事件に巻き込まれて両腕を切断されながらも、一命をとり止め、その後苦労を重ねながら身障者の相談所「自在会」を設立し、自分と同じ立場の身体障害者の自立を支援する福祉活動に励んできたことなど、ビデオで紹介していただいてから、進行役の伊東さん、順教尼の孫、大石晶教さんから熱のこもったお話を伺いました。

※同庵は、順教尼が晩年を過ごされ、お亡くなりになった場所で、その命日の21日は、毎月、開庵日となっています。



進行役の伊東保泰さん



順教尼の孫、大石晶教さん

●宮道神社



安田会員から、宮道神社はかつて山科一帯を本拠として栄えた宮道氏を祀る神社で、かつてこのあたりは宮道氏の邸宅跡であったと伝えられていること、境内にある藤原定方の歌碑などについて説明されました。

藤原定方は藤原高藤と宮道列子の間にも生まれた次男であり、定方の四代後に紫式部が誕生しています。もし藤原定方がいなければ、「源氏物語」は、この世に存在しなかったでしょう。

●藤原定方墓碑



櫻井会員から、この墓碑は巖頂の上に建っていること、巖頂は龍の九匹の子の一匹で、亀の形に似る。重いものを持つことを好むと言われ、背中に碑を乗せていることが多いことなどの説明がありました。

なお、大雨の影響で、予定していた藤原定方墓碑の背後の鍋岡山山頂にある藤原高藤墓碑への拝観は断念しました。

●吉利俱八幡宮



武富会員から、ここは江戸時代までは勸修寺の鎮守社であったこと、境内には、醍醐天皇が身を清められた井戸、豊臣秀吉が前田玄以に寄進させた太閤燈籠、海軍元帥 東郷平八郎が植樹した楠が残っていることなど説明されました。

この日は、大雨の影響で、藤原高藤の墓碑を見ることができなかったのは残念でしたが、初めて訪れたという方も多く、大変有意義であったと好評でした。

(伏見深草部会副部長 櫻井 博)